【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第４区分
【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公開番号】特開2008-310961(P2008-310961A)
【公開日】平成20年12月25日(2008.12.25)
【年通号数】公開・登録公報2008-051
【出願番号】特願2008-252581(P2008-252581)
【国際特許分類】
Ｇ１１Ｂ　17/10　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１１Ｂ　17/10

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月31日(2010.3.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
メディアの中心孔を内周側から把持する把持機構と、先端へ向かって次第に外径が小さくなる形状に形成されて前記メディアの中心孔に挿入されることにより前記メディアの中心を前記把持機構の中心に位置決めするメディアガイドとを有する把持部と、前記把持部によって把持された最上部のメディアの直下のメディアの中心孔の内周面に当接し前記直下のメディアを前記最上部のメディアに対して移動させる作用片を有する移動可能なレバーとが、昇降可能な搬送アームに設けられたメディア搬送機構であって、
前記把持部は、前記最上部のメディアを把持する時に、前記最上部のメディアを押圧した状態で把持し、
前記レバーは、前記最上部のメディアが把持された後に前記直下のメディアを移動させることを特徴とするメディア搬送機構。
【請求項２】
請求項１に記載のメディア搬送機構であって、
前記把持部は、第１の弾性押圧力、または、前記第１の弾性押圧力よりも大きな第２の弾性押圧力の何れかを、把持するメディアの収容状態に応じて選択的に前記最上部のメディアに作用させることを特徴とするメディア搬送機構。
【請求項３】
請求項２に記載のメディア搬送機構であって、
複数のメディアが積層されている箇所から前記最上部のメディアを搬送する場合に、前記第２の弾性押圧力が前記最上部のメディアに作用されることを特徴とするメディア搬送機構。
【請求項４】
請求項２に記載のメディア搬送機構であって、
単一のメディアが保持されている箇所から前記単一のメディアを搬送する場合に、前記第１の弾性押圧力が前記単一のメディアに作用されることを特徴とするメディア搬送機構。
【請求項５】
請求項１から４の何れか一項に記載のメディア搬送機構を備えていることを特徴とするメディア処理装置。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記課題を解決することのできる本発明に係るメディア搬送機構は、メディアの中心孔を内周側から把持する把持機構と、先端へ向かって次第に外径が小さくなる形状に形成されて前記メディアの中心孔に挿入されることにより前記メディアの中心を前記把持機構の中心に位置決めするメディアガイドとを有する把持部と、前記把持部によって把持された最上部のメディアの直下のメディアの中心孔の内周面に当接し前記直下のメディアを前記最上部のメディアに対して移動させる作用片を有する移動可能なレバーとが、昇降可能な搬送アームに設けられたメディア搬送機構であって、前記把持部は、前記最上部のメディアを把持する時に、前記最上部のメディアを押圧した状態で把持し、前記レバーは、前記最上部のメディアが把持された後に前記直下のメディアを移動させることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
この構成のメディア搬送機構によれば、搬送アームの下降時に、把持部が、メディアをメディアガイドによって位置決めして把持機構によって把持することができる。しかも、直下のメディアと密着して貼り付け力が生じるスタッカ内の積層状態のメディアの最上部のメディアを位置決めして把持する際には、把持部を最上部のメディアに押圧させることができる。その後、レバーが、前記最上部のメディアが把持された後に前記直下のメディアを移動させるので、万一、持ち上げるメディアに貼り付いて２枚目のメディアが持ち上げられそうになっても、２枚目のメディアを確実に蹴落として最上部のメディアだけを持ち上げることができる。
また、前記把持部は、第１の弾性押圧力、または、前記第１の弾性押圧力よりも大きな第２の弾性押圧力の何れかを、把持するメディアの収容状態に応じて選択的に前記最上部のメディアに作用させることが好ましい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
また、複数の前記メディアが積層されている箇所から前記最上部のメディアを搬送する場合に、前記第２の弾性押圧力が前記最上部のメディアに作用されることが好ましい。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
また、単一の前記メディアが保持されている箇所から前記単一のメディアを搬送する場合に、前記第１の弾性押圧力が前記単一のメディアに作用されることが好ましい。